

生活科学習指導案

1年

I 単 元 大きくなったじぶんをしろーようこそ しろぐみ・みどりぐみー

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識・技能の基礎

園児と自分自身への気付き
園児への言葉遣いや身体の振る舞い

②思考力・判断力・表現力等の基礎

園児と自分自身への気付きを関連付けながら、園児のために自分ができることを考えるという目的を見出し、園児との関わり方や学校のよさの伝え方を導く力

③学びに向かう力・人間性等

園児と交流することへの意欲や自信を高めながら、園児と楽しく遊んだり、学校のよさを伝えようとしたりする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

- (8) 「生活や出来事の伝え合い」
- (9) 「自分の成長」

(3) 単元の価値

大単元「大きくなったじぶんをしろー」は、園児や家族のために自分にできることを考え、園児と交流したり、家庭で手伝いをしたりする学習である。本小単元「ようこそ しろぐみ・みどりぐみ」は、園児との関わり方や学校のよさの伝え方を試行錯誤しながら工夫をして園児と楽しく交流する学習である。その価値は以下のとおりである。

子どもたちは、入学してからこれまで就学前の生活リズム、活動内容、環境、人間関係の変化に伴う不安や困難があったものの、他学年の児童や保護者、地域の方等に支えられながら、自分たちで適応しようと頑張り、学校生活に慣れてきた。その中で子どもたちは、就学前の学びを生かしながら自分たちにできることを少しずつ増やしてきた。一方で、就学前は年齢の小さい幼児に対して年長者として接してきたが、学校生活の中では、常に下級生であり、自然と他者の役に立つ機会が少くない。このような子どもたちにとって、園児と交流することは、自分たちの園児の頃に抱いていた学校への楽しみや不安等を照らしながら、園児が入学を楽しみにできるように、遊んだり学校のよさを伝えたりしたいという思いや願いをもつことに適している。

園児との交流は、園児に伝わるような道具や話し方といった園児との関わり方や、学習面や生活面といった学校のよさの伝え方が多様であり、自分の思いと園児の思いを基に試行錯誤しながら工夫をすることができる。その中で、園児の頃の様子や入学してからこれまでの間に身に付けた自分ができることに気付くことができる。また、工夫をした園児との関わり方や学校のよさの伝え方で園児と交流することは、園児と交流する楽しさや、園児の気持ちを考えられるようになったことに気付くことができる。

このような園児との関わり方や学校のよさの伝え方を試行錯誤しながら工夫をできたこと、その工夫によって園児が喜んでくれたりしたことを基に、自分自身の成長へと気付きの質が高まっていくことや、思いや願いを実現できた自己有用感や自己肯定感につながる。そして、この単元で高まった意欲や自信を生かして、今後の生活の中でも、身近な人々のために自分ができることを創り出し、生活を豊かにしていくことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、1年「かぞくのなかの ぼく・わたし」で、自分ができる手伝いを試行錯誤しながら工夫をして家庭で手伝いをする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

これまでの生活や学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

① 1年「あきランドをつくろう」の学習で、秋の物を利用して遊ぶ楽しさ、秋の物の色や形等を生かしたおもちゃが作れるようになったこと、おもちゃで友達と楽しく遊ぶことができた自分自身へと気付きの質を高めてきている。このような子どもたちが、園児と交流する楽しさ、園児の気持ちを考えられるようになったこと、自分ができることが増えた自分自身へと気付きの質を高められるように、園児と一緒に遊ぶ、友達を園児に見立てて学校のよさを伝える、園児に学校のよさを伝える段階的な体験活動の中で、園児と自分自身との関わりを表現する機会を繰り返し設定する。

1年「がっこうたんけんをしよう」の学習や学校生活の中で、友達や先生への言葉遣いや身体の振る舞いができるようになってきている。このような子どもたちが、園児への言葉遣いや身体の振る舞いができるように、提示した話し方の例を基に、園児と交流する活動を繰り返し設定する。

② 1年「おおきくそだてよう」の学習で、アサガオの生長の様子への気付きを関連付けながら、アサガオを大きく育てるという目的を見だし、世話の仕方の工夫をすることができるようになってきている。このような子どもたちが、園児と自分自身への気付きを関連付けながら、園児のために自分ができることを考えるという目的を見出し、園児との関わり方や学校のよさの伝え方の工夫をすることができるように、学校のよさの伝え方を友達と伝え合う活動を設定する。

③ 1年「あきランドをつくろう」の学習で、秋の物を使ったおもちゃを作ることへの意欲や自信を高めながら、秋の物を使っておもちゃ作りをしたり、作ったおもちゃで友達と遊んだりすることができるようになってきている。このような子どもたちが、園児と交流することへの意欲や自信を高めながら、園児と楽しく遊んだり、学校のよさを伝えようとしたりすることができるように、泥に手や足で十分触れたり、自分の泥の遊び方で友達と一緒に遊んだりする機会を繰り返し設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

1 ねらい 学校のよさの伝え方を紹介し合って聞いた友達からの感想を基に、学校のよさの伝え方の工夫をすることを通して、園児の立場に立った学校のよさの伝え方を導くことができる。

2 準備

3 本時に想定した躍動をする子どもの姿

子どもが、目的「園児に学校のよさを伝えたい」の達成に向けて、友達と自分たちの学校のよさを伝える方法を実践したり、新たな方法を試したりしている。

4 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の教科書の劇をするのも園児が喜んでくれそうだな。ぼくの園児と一緒に「さんぼ」を歌うもいいと思うから友達にやってもらいたいな。 ・ 友達からアドバイスをもらったり、相談をすればもっと園児に喜んでもらえる方法になるんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校のよさの伝え方を友達に伝えたいという興味・関心を高められるように、紹介した学校のよさの伝え方の感想を促す。 ○ 友達と学校のよさの伝え方を紹介し感想やアドバイスを伝え合い、伝え方を考えるという本時の見通しをもてるように、「対話を支える学び方」を示した拡大シートを提示し、園児に喜んでもらえる伝え方にする方法を問いかける。
<p>めあて 「学校のよさの伝え方を友達と紹介し合って、伝え方をパワーアップさせよう」</p>	
<p>2 他の班の友達と学校のよさの伝え方を紹介し感想やアドバイスを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の秋の物を使って、おもちゃを作るも一緒にできて園児に喜んでもらえると思うな。 ・ 友達から一緒に歌を歌うだけじゃなくて、手拍子もしてみたらって言われたな。どうしてって聞いたら、歌は幼稚園でもやるって言っててそうだと思う。どうしようかな。 <p>3 同じ班の友達と学校のよさの伝え方を相談したり、試したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌うだけじゃなくて、手拍子や楽器を使ってみたら、もっと喜んでもらえると思うな。友達が言うように、幼稚園でやった歌と学校で習った曲を混ぜてみてもいいかもしれないな。 ・ 音楽でタンブリンをやったから、使ってみるといいかもな。歌は「さんぼ」と「しろくまのジェンカ」がいいかな。 ・ ぼくは、歌は「さんぼ」と「しろくまのジェンカ」をタンブリンで演奏するにしたよ。だって、学校でやったことと幼稚園でやったことがあるから、喜んでもらえると思うもん。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分と友達の学校のよさの伝え方を比べられるように、「園児に伝わる」「園児に喜んでもらえる」の視点で他の班の友達と園児役とに分かれて、学校のよさの伝え方を伝え合うよう促す。 ○ 自分の学校のよさの伝え方の善し悪しが分かるように、「園児に伝わる」「園児に喜んでもらえる」の視点で共有ボードに感想やアドバイスを記述するよう促す。 ○ 園児の立場に立った学校のよさの伝え方を考えられるように、共有ボードを基に、同じ班の友達と相談し、試すよう促す。 ○ 園児の立場に立った学校のよさの伝え方を自己決定していけるように、班でまとめた学校のよさを伝える内容の掲示し、活用するよう促す。 ○ 園児の立場に立った学校のよさの伝え方を考えられた自分自身に気付けるように、伝え方を変化させたところとその理由を問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">園児の立場に立った学校のよさの伝え方を発言したり、試したりしている。</p> <p style="text-align: right;"><発言・行動②></p> </div>
<p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝え方がパワーアップしたと思うな。友達が納得するまで相談できたからな。幼稚園の子と一緒に歌ったり楽器を使ったりして、「入学が楽しみ」って喜んでもらいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時で園児と交流することへの意欲や自信が高められるように、「対話を支える学び方」を示した拡大シートを提示し、伝え方が導けたことと、そのために役立ったところを自己評価するよう促す。

指導と評価の計画（全8時間）

目標	園児と交流することを通して、園児との関わり方や学校のよさの伝え方の工夫をして、園児と交流する楽しさ、園児の気持ちを考えられるようになったこと、園児のために自分ができることが増えたこと等の自分自身の成長に気づき、園児と楽しく遊んだり、学校のよさを伝えたりすることができる。			
評価 規準	(①知識・技能の基礎)園児と交流する楽しさ、園児の気持ちを考えられるようになったこと、園児のために自分ができることが増えたこと等の自分自身の成長に気付いている。 (②思考・判断・表現等の基礎)園児の特徴やよさや園児の気持ちを関連付けたりしながら、園児のために自分ができることを考えるという目的や課題を見出し、園児との関わり方や学校のよさの伝え方の工夫をして遊んだり、伝えたりしている。 (③主体的に学習に取り組む態度)園児と交流することへの意欲や自信を高めながら、園児と楽しく遊んだり、学校のよさを伝えようとしていたりしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
であ う	1	○幼稚園の先生から園児の学校に対する思いや願いを開き、自分が入学してからできるようになったことや幼児の頃に学校に対して思っていたことを話し合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 幼稚園の子が、入学式を楽しみにできるように、楽しく遊んだり、学校のよさを伝えたりしよう	○自分のできるようになったことを振り返ることができるように、4月からの学習や生活の様子の写真を提示する。	◇自分のできるようになったことを基に、園児のためにしてあげたいことや一緒にしたいことを伝えている。 <発言③>
	1	○附属幼稚園で、園児と一緒に遊ぶ計画を立てる。	○附属幼稚園で遊ぶ内容を考えられるように、附属幼稚園にある遊具や使える道具と「園児が楽しめる」という視点を提示する。	◇自分だけでなく、園児が楽しめるような遊びを伝えている。 <発言・行動②>
か か わ る	1	○幼稚園に行き、園児と遊んだり、感想をしたりする。(交流1)	○園児と一緒に楽しく遊べるように、幼稚園児の名簿や昨年との交流の笑顔で手を繋いでいる様子の写真を提示する。	◇園児の名前を呼んだり手を繋いだりしながら、遊んでいる。 <行動・発言②>
	課外	○園児に学校でしたいことを聞いたり、掃除の手伝いをしたりする。		
	2	○園児と遊んだり、インタビューをしたりして思ったことを基に、学校のよさを伝える方法を話し合い、試す。	○学校のよさを伝える方法を見付けられるように、「園児の気持ち」「自分たちにできること」という視点を提示する。	◇園児が学校のよさを伝える方法を友達に伝えたり、試している。 <発言・行動②>
	1	○学校のよさを伝える方法を相談したり、試したりする。(本時)	○園児の気持ちに寄り添った学校のよさを伝える方法を考えられるように、「」という視点を基に伝える役と園児役とに分かれて模擬交流をする機会を設ける。	◇園児が学校のよさを伝える方法を友達に伝えたり、試している。 <発言・行動②>
ま ・ と い め か る す	1	○園児との交流で頑張ったことと喜んでもらった理由を話し合い、これからの生活でやってみたいことを伝える。	○自分自身の成長を実感することができるように、交流1と2の写真から幼稚園児の顔の表情を比較し、気付いた相違点とその理由を話し合う活動を設定する。	◇幼稚園児の表情の変化や感想を基に、自分ができたことについて、絵や文で表している。 <学習プリント①>
	担任	○来年の1年生のために、チューリップの球根を植える。		